

(平成 30 年 5 月試験研究業務月報)

試験研究課題：新病害ネギえそ条斑病の発生生態の解明と防除技術の確立

研 究

ネギえそ条斑病の発生生態の解明

ネギえそ条斑病はネギアザミウマが媒介するウイルス病で、多発すると出荷調製の負担が増加するため収穫放棄に至る場合もあり、生産者の意欲低下を招くなど問題となっています。

そこで、当センターでは、防除体系を確立するため、地理的・季節的発生状況の年次変動を把握し、特にネギアザミウマの系統調査※及び初期密度を下げる農薬の実証試験などの研究に取り組んでいます。

今年度末には、3 年間の調査結果と実証結果を取りまとめ、生産現場で活用できる防除マニュアルを作成する予定です。

※系統調査 ネギアザミウマには雄と雌を産む「産雄系統」と、雌だけを産む「産雌系統」があり、現地で生殖系統を調査します。これまでの調査で、産雄系統が農薬に強いことが明らかになってきました。



ネギアザミウマの系統調査（5 月 28 日、山城地域）